

社会福祉法人栄光会

児童養護施設 若草園

〒787-0155 高知県四万十市下田 2211

TEL (0880) 33-0247 Fax (0880) 33-0518

IPフォン 050-3344-8850

ホームページ⇒ <http://wakakusaen.holy.jp/>

発行：福留久美、編集：瀬戸雅弘



わかくさ



屋根より高いこいのぼり
「若草園を支える会」
から寄贈されたこいのぼりが、
今年も浜風に吹かれています。



新たなスタート!



施設長

福留久美

満開の桜もあっという間に新芽と変わり、日に日に新緑へと染まりつつありますね。

3月末には6名の児童が無事高校を卒業し、卒園式を終え進学・就職へとそれぞれの地へ不安と展望をもって巣立っていきました。この卒園生6名は6～16年間という長い若草園生活を自分らしく過ごしてくれました。それぞれの環境に屈せず、我が道を歩んでくれていることをうれしく思うところです。地域の皆様はもとより、関係機関の方々のおかげをもちまして、希望に満ちた門出が出来ましたことをご報告いたします。ご支援頂きました事を深く感謝申し上げます。

また、在園生31名は期待と希望に胸膨らませ新学期を迎え、元気に登校しております。特にピカピカのランドセル姿、真新しいちょっと大きめの学生服姿の新1年生達を見ていると、自然と笑みがこぼれてきます。

本年度も、幡多地域はもとより、高知県内の子ども達が笑顔で暮らせる環境であるために、児童福祉事業に精進して参ります。若草園は、子ども達が安全で安心できる環境・生活を提供できる養育を行って参ります。児童家庭支援センターわかくさは、地域の子ども達が家庭で安心して暮らせるように、子育ての応援をさせていただきます。お気軽にご相談下さい。アフターケア事業あおばも、退所した子どもたちが地域で安定した生活・就労・進学等ができるように、支援を行って参ります。

これからも皆様のご支援・ご鞭撻くださいますよう、お願い申し上げます。

育児相談窓口
 児童家庭支援センター
わかくさ
 でんわ (0880) 33-0258
 24時間 365日
 相談料無料
 (通話料はかかります)

平成30年度若草園

職員紹介

この1年間、この36人で子ども達の養育に取り組んで参ります。
 なお、法人役員につきましては次号にてご紹介いたします。

Aホーム



横山智也 山中亜理佐 熊岡己貴 森田涼子 岩井愛 横井義順 所谷英 久保里奈 矢野由奈

Bホーム

Cホーム

平野ホーム (分園)



田中貴実子 (旧姓 横山) 有友沙希 小松伸雄 尾崎久美子 江口雅俊 石橋美希 田中由美子 上岡穂子 茶畑一恵

具同ホーム (地域小規模児童養護施設)

調理

フリー



森田佳代 瀧澤勝 吉永直子 橋村きみこ 橋田きし子 小島かをり 谷本文明 田野ひなり 岩瀬みどり 秋元志津
 主任・家庭相談 主任・個別対応 主任・分園 心理 一時保護対応 ほか非常に非常勤で福留久男、坂千津子

ベビールーム

児童家庭支援センター



植木美和 石井希歩 岡崎光子
 アターケー

退所児童等アフターケア事業

児童養護施設、里親家庭などから自立した方の相談窓口はこちらです。
TEL (090)5912-1785
 (9:00-17:00) 相談員：岡崎

事務



福留久美 施設長 瀬戸雅弘 若草園を支える会事務局 寺田知子

4月より若草園で働かせて頂いており、
 田野と申します。まだまだ分からないことば
 かりで迷惑をおかけすることもあると思
 いますが、他の職員の方々に様々なことを教
 えて頂きながら、子ども達の心に寄り添えるよ
 う一生懸命頑張りたいと思います。至らない
 点が多々あるとは思いますが、よろしくお願
 いします。

たの
 野ひなり



1月より指導員助手として働かせて頂いて
 おります、谷本と申します。
 福祉関係の仕事に就かせて頂く事が初めて
 で、多くの方々に支えられながらの日々にな
 るかとは思われますが、そんな中でもできる
 範囲内で仕事等を通じてご恩返しをさせて頂
 けたらと思っておりますので宜しくお願い致
 します。

たの
 谷本文明



新人職員紹介

3月末に退職した職員が2名ありまし
 た。今年から新しく若草園に加わった仲
 間たちを紹介します。

4.2 幼稚園入園式

中村幼稚園から車で若草園に帰る
 頃には、疲れ果ててしまいました。
 若草園の子どもは法律の壁のため
 地元の保育所には通えません。



4月初旬 入学準備

中村幼稚園を卒園して、いよいよ下
 田小学校の1年生。今年は新1年生
 に小泉産業様から学習机が寄付さ
 れました。ありがとうございます。



3.23 初ツバメがやってきた

去年、巣立った子どもたちでしょうか？
 はやくも若草園にツバメが！ 今
 年は巣の数も増えました。(機関誌
 No. 42 に関連記事あり)



3.3 権利学習

トロント交流会の事後学習を鳥取子
 ども学園の高校生と合同で、若草園
 にて実施しました。



3月下旬 卒園生の出発

卒園式を終えて6人はそれぞれの就
 学地に、就職地に旅立ちます。タイ
 ミングはそれぞれ違いますが、挨拶
 に来た時、みんなでお見送り。



3.10 若草園の卒園式

毎年恒例、職員全員から卒園生へ
 の門出の合唱。幼児が小さなマラ
 カスを一生懸命に振って、職員の
 歌を応援してくれています。



お花に水やり

幼児が遊んでいる際に園庭のプラ
 ンターにお水やり。「私もする〜」。



2.17 源平合戦

百人一首カルタを白組の源氏チー
 ムと赤組の平家チームで競います。



3.18 お別れ遠足

卒園生との最後のレク
 リエーション。今年は
 地元の四万十川キャン
 プ場(赤鉄橋・入田側)
 で行いました。



2.3 若草園スキー研修

矢野川研理事の指導により小中学生
 が久万高原へ行きました。



2.3 節分

「鬼だぞ〜!!」。リアルすぎて、
 怖すぎでした。





今年もガーデンパーティーの時期になりました。若草園の庭、管理棟、子どもの住居棟ともに全面的にオープンにして実施しております。施設見学の良い機会にもなりますので、どうぞ来場ください。軽食と出し物があります。入場無料です。



5/26
土曜日
11:30 ~ 14:00

→ 去年の様子



作文コーナー

幡多農業高校3年

りささん



私は農業高校に入学した。そこで初めて牛や豚に触れた。今までにないような感覚だった。今から動物たちの世話をしていくのだ、と私は改めて感じた。それから毎日、実習が行われた。初めはすごく怖くて、動物に近づくことすらできなかった。正直「こんなことやってられない」と思った。それから実習は続き、2年生になった。そのころには豚が好きになり、牛が大好きになった。毎日の実習が楽しみになり、学校に行くのが楽しくなっていた。

実習のある日はいつも以上に張り切って、授業を受けることができた。こんなに動物が好きになり、動物のことを考えられるようになったのは初めてだった。

でも良い事ばかりではない。実習の中で命と向き合い、命の大切さを学んだ。私はその勉強をした後に、もっと深く学びたいと思い、酪農関係に進学することに決めた。

私は農業高校に通っていく中で、普通高校では学べないこともたくさん学んだ。動物を愛すること、命の大切さ、そして一番に私の「好き」というものに出会えた。これから先いろいろな事があると思うが、今までに学んだ事を生かして励んでいきたい。

(この作文は高知新聞の声ひろばに掲載されました。機関誌No.42に関連記事あり)



3.12 若草園の卒園式

管理棟・地域交流多目的ホールにて16時から開催されました。児童相談所や各市町村の家庭相談室、卒園生の学校(小・中・高校)の先生方を招き、励ましの言葉をいただき、卒園生から感謝の言葉が述べられました。

編集後記



今年の卒園生で最も長く若草園で過ごした期間は16年6月だった。前号でも触れたが、若草園では0歳児からの受け入れが可能なので、今後は措置延長と合わせれば「若草園で22年を過ごした」という児童も起こり得る。▼近年、児童福祉において「パーマネンシー保障」という言葉を用いるようになった。パーマネントとは不変や永久を表す英語だが、頭髪のおしゃれに用いるパーマネット・ウェーブの略語「パーマ」が一般化しているので、ピンとこない外来語ではある。▼美容室で1万円かけたパーマも、毎日シャンプーをしていけば1カ月もすればカールはゆるくなる。本来の意味ほど永続性のないウェーブであることは皆、承知の上だ。▼人生80年時代。中年になってから一念発起し、全く新しい人生へと切り替える人の話はよく聞く。その点では高齢化社会はやり直しができるのかもしれない。▼しかし、虐待を受けた児童の心の傷は一生涯かかっても癒えないことがある。この世の中に永遠に続くものはない。しかし、制度としての児童福祉の充実を引き続き求めたいものだ。(せと)